



6月は水無月(みなづき)と言います。水の月の意味です。そして、6月10日は時の記念日(1920年制定)です。天智天皇(中大兄皇子)が671年に漏刻(ろうこく、水時計)を建造して時を計ったことからと言われています。この水時計は奈良の飛鳥川の水を使っていましたが、現在は水落遺跡の名で知られています(甘檜の丘と飛鳥寺の中間)。ところで、今年は、2月は寒かったのに、3月に入ると急に暖かくなり、4月、5月は季節外れの夏模様でした。季節の花も、前倒しで、桜が早かったのに続き、藤の花も毎年連休頃と思っていたのが4月末までには終わってしまいました。楽しいバラの花も、五月の中頃で終わりのようです。また、東日本や北日本では田植えは終わりですが、西日本では、麦を刈り取ってからの田植えのところもあり、植えたばかりの田んぼもあります。今年の稲の成長はどうなるのでしょうか。天気にも恵まれ、豊作になって欲しいですね。

さて、5月の連休、皆さんはどこかへお出掛けしましたか。私は、奈良へ行ってきました。このところ毎年奈良を散歩していますが、今年は、「八塩折之酒(やしおりのさけ)」の記述がある『古事記』の編者である太安萬侶(おおのやすまろ)のお墓を見学してきました。場所は、奈良市の中心から東南の方向で住所は奈良市此瀬町です。県道脇に車を止め、茶畑を上ること30-40mで安萬侶のお墓がありました。きれいな茶畑を見下ろすようにして、葬られたようです。近く(300m位離れて)には、光仁天皇陵(田原東陵)があります。光仁天皇は、桓武天皇の父帝です。車で回ってしまいましたが、緑の山と美しい水田や茶畑は歩くところがすがすがしい気分になりますね。

ところで、5月は第23回清酒製造入門セミナーが開催されました。今年から、座学は赤煉瓦酒造工場の旧ボイラー室で、実習は協会会議室、実験室を使って行いました。講義の内容を簡単に紹介しますと、はじめに岡崎会長の「酒造り・醸造のおもしろさ」、次に木崎常務の「酒造の基礎」、3番目は「清酒の造り方(1)」若林元鑑定官室長、4番目は「清酒酵母の取り扱いと酒質」で当協会中原研究室長、2日目は、1番目が「清酒の造り方(2)」岩田元鑑定官室長、2番目が「製造工程および製品の微生物管理」で当協会蓮田技師、3番目が「清酒成分分析の知識」で当協会武藤技師、そして、4番目は「きき酒の知識と実践」で当協会の井口技術員です。3日目は、酵母のTTC染色、火落菌検出、生酸菌検出、一般成分分析法の実習を4班に分け一日かけて行いました。今回の受講者は、定員一杯の36名でした。1日目の夜に簡素な懇親会を行って話を伺ってみると、新卒で酒造会社に入られた人以外にも、デスクワークがいやで、「ものづくり」をしたいと入ってこられた人など、色々でした。皆様、熱心に受講していただき、再履修(実習のみ)も9人のご希望がありました。今後も、清酒の入門セミナーは続けて参ります。是非、ご参加いただきたくお願いいたします。



太安萬侶の墓(2018.5.4)



茶畑